

仙台・文化財サポーター会活動記録（保存継承部会）

○6月20日（金）例会 「仙台のダークな伝承を探る（続編）」

- ・13時集合～16時解散
- ・参加者 16名
- ・今回の活動では、ダークな伝承が残されている二ヶ所、一つ目は七北田川沿いにある「人柱割石」と二つ目が泉区大沢にある「金玉神社」を訪れました。
途中、ダークな伝承とは関係ないものの「松森城跡」にも足を伸ばしてきました。

① 人柱割石（七北田川沿い）



宮城野区田子 人柱割石伝説

・多賀城付近七北田川沿いの堤防工事で通りがかりの女性(新田)が人柱にされ犠牲となった。その後夜になると近辺に女性の幽霊が現れて村人は恐れ慄いた。それを聞いたある侍が刀を手に幽霊退治に向かうこととなった。深夜侍が行くと件の幽霊が現れ、侍は幽霊に斬りつけました。翌朝現場を確認しに行くとい刀両断され二つに分かれた石版がありその後幽霊は現れなくなると伝えられている

・割石 貞享(じょうきょう)[1684～1688] 割石自体は室町時代頃から存在しているともいわれている。南無阿弥陀仏と双方に刻印されている。一つの石碑(1319年)が佛仏殿敷で割られたのでなく少なくとも江戸期(1685年)頃から現在の形状にて伝承され続けたと思われます。



人柱割石（七北田川沿い）

割石は室町時代から存在していると言われていて「南無阿弥陀仏」と双方に刻印されています。

割れた面にも刻印されていることが今回確認できました。

② 松森城跡（登らず掲示板まで）



今回は登城路の散策まではできませんでしたが、当日配布資料と掲示板でその概要を確認しました。江戸時代の『野初絵図』には幾重もの曲輪からなる松森城が描かれています。

③ 金玉（きんぎょく）神社 （泉区 大沢）



金玉（きんぎょく）神社 （泉区大沢）

金玉神社はもと大沢大ヶ沢の丘陵中にあり、座頭神様あるいは金玉塚とも呼ばれていました。盲人を祀ることから、参拝者は杖を奉納していくそうです。

金玉塚

宮城郡の七北田から旧奥州街道の国道四号線を北へ、黒川郡の富谷に越える低い峠の、七北田がわに大沢という部落がある。郡境を越える今の道路は大曲りといって明治時代の改修で、昔は峠の南から東がわの尾根道を富谷へ越えた。その旧道入り口の民家の門前に、近頃上の方を伐った柳の大木があつて、傍らに金玉神社入口というペンキぬりの指道標が立っていたが、ここを通る人々が「金玉とは奇抜な神さまもあるものだ」といつて笑うためでもあつたか、朽ちるにまかせて取り除かれてしまった。門を入つて旧道の急な坂を登ると台地の上にキンギョク神社の荒れはてた、ささやかな社殿が立っている。

昔、南部の金玉という盲人が座頭の位をとるため、永年かかつて貯めた虎の子の金を胴巻きにして、はるばる京へ旅立つた。泊まりを重ねて富谷の方から峠を下りに大沢へかかった。峠の北、富谷がわに大清水という一つ家の茶見世があるだけで、仙台城下へあと二里半というに寂しい山路である。そこへ追はきが現われて、いきなり金玉のノドに白刃をつきつけた。金玉はわけを話し手を合せて命乞いをしたが聞かばこそ、金玉も観念して「金もやる。命もやる。ついではお前の名を聞いてあの世に行きたい。もし名乗らねえなら七代たつてやる」というので追はきは「冥土のみやげに聞かしてやろう。おれが名は鈴木甚八だ」といった。すると金玉は「とてもものことに、も一つ頼みがある。短かいお経をおしえるから必ず日に何べんとなく大きな声で唱えてくれ。そしたらわしも成仏するしお前にもたたるまい。そのお経は」といつて

コガネダマ ダイタクサンデ セツガイス ヌシハ レイボク ハナハダシヤツ
と電報みたいな文句をくり返しおしえて殺された。

南部の留守宅では金玉が待てど暮らせど戻らないので弟子の一人が京へ行方を捜しに旅立つた。ある日、そんな事とは知らず大沢の一つ家に泊まつた。寝床にはいつて間もなく、となりの部屋でお経のような声があった。聞くともなく聞いていると「コガネダマ」というので金玉とさとり、はつとなつた。つづいてダイタクサンデ（大沢山で）セツガイス（殺害す）ヌシハ（犯人は）レイボク（鈴木）ハナハダシヤツ（甚八）と解読して動転したが、翌朝何くわぬ顔をして、お経のぬしが師匠殺しの犯人鈴木甚八であることを確認し、早々に出立して、次の宿場七北田の検断役宅に訴え出た。甚八はすぐ召し捕りとなり七北田刑場で磔（はりつけ）になつた。

村人は金玉を路傍に埋葬し、供養碑を立てて金玉塚と称した。また金玉の霊を祀り旅人の道中安全のため社を建て金玉神社と名づけた。碑は道路改修のとき所在を失したが、社には今も時々盲人が遠方からも参詣に来て杖を奉納する。

